

境港ボート協会 沿革

境港では、みなとまちであったことから、古くからボート競技が盛んに行われていた。昭和22年境中学（現在の境高校）に新艇フィックスを購入するための募金運動がきっかけとなり、同年「境港漕艇協会」が誕生した。また、境高校端艇部は、昭和24年の第二回朝日レガッタから3年連続優勝の快挙を飾っている。

協会では、昭和20年代から30年代にかけて境水道において、「みなと祭」の協賛事業として、境レガッタ（現在の境港ボートレース大会）を開催し、ボート競技の発展に努めていた。

しかし、高度経済成長期に港湾の整備などが行われ、拠点が境水道から中浜港（中海）に移された。この事（拠点が市内中心部から郊外に移動）により昭和39年を最後に境レガッタは、中断し、協会の活動も一時停滞した。

昭和62年に今まで中断していた境港ボートレース大会（第15回）を復活させ現在に至る。また、平成2年に長崎のペーロン競漕を取り入れ、「みなと祭」に新たにぎわいをもたらした。

平成8年には、念願であった市民艇庫（中浜港）が完成した。また、同時に境港ボート協会が中心になり寄付を集め、カーボンナックル艇を購入した。

平成15年頃から、行政機関により市民艇庫周辺の中浜港が親水護岸として整備され、平成17年から親睦事業である「境港ボートマラソン大会」。平成18年から中海圏域の交流の場としての「中海レガッタ」を開催している。

また、平成21年には、笛川スポーツ財団からの助成を受け、中浜港に夜間照明を設置し、水上スポーツの練習環境整備・安全性の向上に寄与している。

平成23年に夜間照明を利用したナイター競走を実施し、中浜港の利用促進に努めている。また、同年、全国ボート場所在地市町村協議会の鎧塚最高顧問の支援を受け、交流のあった愛知県東郷町より中古のカーボンナックル4艇を購入し、ボート場としての環境整備に努めている。

※境港ボート協会では、行政に頼らない形での環境整備に取り組んでいる。艇・ライフジackets・コース備品などの購入、市民艇庫の水道光熱費等の負担（平成19年より）、艇庫周辺環境の清掃活動など